

## 吉丸一昌の作詞代表作

- ・早春賦 (作曲：中田章)
- ・故郷を離るる歌 (曲：ドイツ民謡)
- ・浦のあけくれ (作曲：マジンギー)
- ・木の葉 (作曲：中田章)
- ・蛍狩り (作曲：中田章)
- ・蜜蜂 (曲：ドイツ民謡)

## プロフィール 吉丸一昌 よしまるかずまさ

吉丸一昌は明治6年9月15日、父角内、母ノブの長男として大分県北海部郡海添村（現臼杵市海添）に生まれました。明治12年、臼杵学校へ入学した一昌は向学心に燃え、優秀な成績で大分県よりたびたび表彰されています。

臼杵学校卒業後、大分県尋常中学校（現上野丘高校）、熊本の第五高等学校（現熊本大学）へと進学しました。ここでの夏目漱石との出会いは、後の吉丸一昌の進路を決定づけています。

第五高等学校卒業後、東京帝国大学（現東京大学）国文科へ進みました。この頃より吉丸は修養塾と称し、少年10名程と生活を共にして、勉学はもとより衣食住から就職に至るまで世話をしています。それに東京でデッチ奉公している田舎出の少年や中学へ行けない者の為に、下谷中等夜学校を開設しています。

明治34年、東京帝国大学国文科を卒業して、東京府立第三中学校（現 両国高校）の教諭になりました。ここでは芥川龍之介を教えています。明治41年、東京音楽学校（現 東京芸大）の教授に招かれて生徒監に任命されています。文部省からは『尋常小学唱歌』の編さん委員で作詞の主任に任命されています。

明治45年より、童謡の先駆となる『新作唱歌』全10集を発表しました。この中に、あの早春賦、故郷を離るる歌、木の葉等があります。吉丸一昌は200とも300とも言われる程の歌を作っています。また若い人材をも育てています。中山晋平、大和田愛羅、本居長世、弘田龍太郎、舟橋栄吉、山田耕作など数多くの人があります。

大正5年3月、43才の若さで世界しました。

## ご案内図



- 開館時間 午前8時30分～午後5時(年中無休)
- 入館料 一般210円・小中学生110円  
(20名以上様から団体料金有り)

## 吉丸一昌記念館 早春賦の館

大分県臼杵市大字市浜980番地  
TEL 0972-63-7999

大分県臼杵市産業観光課  
TEL 0972-63-1111 FAX 0972-64-0203

臼杵市 <http://www.city.usuki.oita.jp>  
臼杵市観光情報協会 <http://www.usuki-kanko.com>

## 吉丸一昌記念館

# 早春賦の館

吉丸一昌記念館「早春賦の館」は臼杵市が生んだ有名な国文学者、吉丸一昌の生誕120周年を記念して、ユキ夫人の実家(旧板井家)に平成6年4月1日開館されたものです。  
館内には当時の楽譜・遺品等、吉丸一昌のゆかりの品が多数展示されております。



# 早春賦

吉丸一昌 作詞

春は名のみの風の寒さや  
谷の鶯 歌は思へど  
時にあらずと声も立てず  
時にあらずと声も立てず

氷解け去り葦は角ぐむ  
さては時ぞと思ふあやにく  
今日もきのふも雪の空  
今日もきのふも雪の空

春と聞かねば知らでありしを  
聞けば急かる、胸の思を  
いかにせよとのこの頃か  
いかにせよとのこの頃か



展示室



展示室



楽譜・遺稿



秀歌百人一首



中央公民館前▲